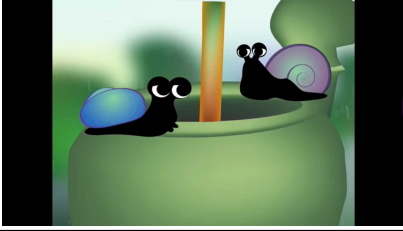


6月 全校朝会
令和7年6月2日

**人のかなしみを知り、
よろこびを知る**

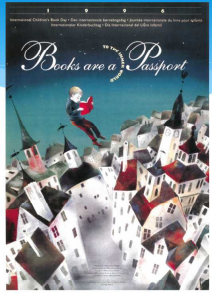
根っこと翼を与える読書

お友だちのでんでん虫の所にやってきました。「わたしはもう、生きてはいられません」と、お友だちに言いました。



上皇后美智子
さま

1998年国際児童図書評議会
ニューデリー大会
で「でんでんむ
しのかなしみ」の
話をされる。



国際子どもの本の日ポスター

「この作物はなに？」

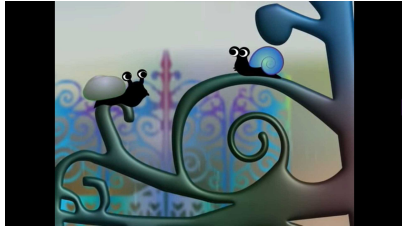
読んでみよう

麦 秋

ばくしゅう



お友だちのでんでん虫は言いました。「あなたばかりではありません。わたしの背中にも悲しみはいっぱいです」



「でんでんむしのかなしみ」を引用して、
「本の中で人生の悲しみを
知ることは、自分の人生に
幾ばくかの厚みを加え、
他者への思いを深める。」
(上皇后美智子様のお言葉)

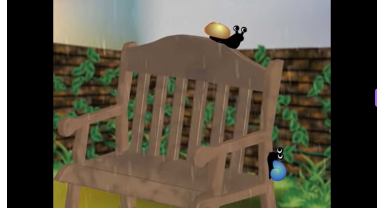
なんの日？

6月20日 金曜日 23:41

ブラジルは？ 冬至
この日から、冬が始まる
1年で、もっとも昼が短い日

日本は？ 夏至
この日から、夏が始まる
1年で、もっとも昼が長い日

こうして、お友だちを順々に訪ねて行きましたが、どのお友だちも、同じことを言うのでありました。



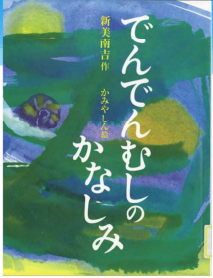
「読書」とは

- ・自分の中に、しっかりと根を持つために
- ・喜びと想像の強い翼を持つために
- ・痛みをともなう愛を知るために
- ・人生の複雑さに耐え、それぞれに与えられた人生を受け入れて生き、やがて一人一人、ふるさとであるこの地球で、平和の道具となっていくために。

気候がさわやかなこの季節、
仲間の思いに気づける人になりましょう

「でんでんむしのかなしみ」

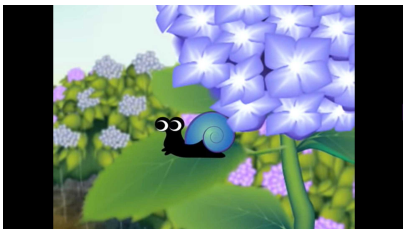
新美南吉
(1913-1943)
ごんぎつね・
てぶくろをかいに
など、名作を書く。



「悲しみは、だれでも持っているのだ。わたしばかりではないのだ。わたしは、わたしの悲しみをこらえて行かなきゃならない」もうなげくのをやめたのです。



一匹のでんでん虫がありました。「わたしの背中の殻の中には悲しみがいっぱい詰まっている」



からいっぱいの悲しみ

・どれだけ多くきずつくことがあったか。
・もう生きていけない、生きることが楽でないと思った。
・人はみな悲しみを抱えて生きている。
・喜びに向かって伸びようとする心。